

郷土に誇りと愛着を つがる市型郷土学副読本発行

市教育委員会では児童生徒に郷土に誇りと愛着をもってもらうと「つがる市型郷土学副読本」を発行しました。

副読本は、世界文化遺産の亀ヶ岡石器時代遺跡と田小屋野貝塚をはじめとする縄文文化、木造吹原出身で国際的な天文学者の故一戸直蔵、130年以上前に車力沖で起きたチェスボロー号の遭難事故の3つが題材。市内全小中学校において、さまざまな教科で活用していきます。

4月22日、旧制木造中学校講堂で市教育委員や編集に携わった関係者に完成した副読本を披露。葛西教育長は「児童生徒たちに自分たちの住んでいるところの良さを理解してほしい。そして自分で考える力が身につくことに期待したい」と話しました。一戸直蔵の題材の編集に携わった郷土史家福土光俊さんは「身近なところに偉大な人がいることを誇りに思ってもらいたい」と話しました。



完成した副読本

ボランティアガイドが遺跡の魅力伝える



4/23 しゃこちゃん広場

「頑張ろう」と掛け声を上げるガイドたち

この日、市教育委員会が縄文遺跡ボランティアガイド「つがる縄文遺跡案内人」の出発式を行いました。

ボランティアガイドには11人が登録し、11月末までの土日祝日の10時から15時まで、亀ヶ岡石器時代遺跡と田小屋野貝塚の案内や魅力発信を行います。

出発式では葛西教育長が「皆さんの豊かな経験と学習してきたことを発揮して、来て良かった、また来たいと思ってもらえるよう頑張ってください」とあいさつ。ガイドを務める原田美子さんは「多くの方が訪れると思うので、縄文時代の様子などをしっかりPRしたい」と意気込みを話しました。

現在、しゃこちゃん広場南側の案内所は拡張工事を行っているため、完成する7月2日までは広場西側の仮設案内所で対応しています。

出来秋を願い最盛期を迎えた田植え

稲作農家の生産意欲の高揚を図ろうと、倉光市長はじめ西北地域県民局、農協関係者などが、市内を巡回して田植え作業中の生産者を督励しました。

この日一行は、稲垣地区の大高聖功さんと黒滝彰さんの水田を訪問し、順調に作業が進んでいることを確認。田植え後も天気に合わせて適切に水管理するよう呼び掛けました。

大高さんは「天気がいいので、仕事がかどっている」と話し、倉光市長も「事故の無いように作業してください。出来秋を期待しています」と激励していました。



5/17 稲垣地区

大高さんの水田でスマート田植え機の機能を確認する倉光市長

きれいなつがる市のために一汗

4/25・26 つがる地球村周辺



丁寧にゴミを拾い集める生徒たち

木造コミュニティ実行委員会（白戸英行会長）が主催するごみゼロ運動が行われました。

出発式には、市金融団や警察官友の会など約80人が集り、朝6時から各町内のごみを拾い、環境美化の意識を高めていました。

参加した野呂開成さんは「一人一人の心掛けがあっても、昨年よりもゴミが少ない印象を受けた。引き続き地域の一員として環境美化に貢献していきたい」と話しました。

県立森田養護学校高等部の生徒や森養ひまわり応援隊など約30人が、5月1日に開催された「おやこウオークin地球村」のコースのごみ拾いを行いました。

生徒たちは、おやこウオークの参加者が気持ちよく歩けるよう、道路脇に落ちていた空き缶やたばこの吸い殻などを丁寧に拾い集め、イベントの成功を支えていました。

5/7 木造地区



早朝からごみ拾いに汗を流す参加者たち

皆さまの善意に感謝します

株式会社北武開発生コンクリート（工藤武則代表取締役）が縄文遺跡の魅力向上や情報発信に役立ててほしいと、金一封を寄付しました。

相馬柳子工場長は「北海道・北東北の縄文遺跡群の世界文化遺産登録は、市にとって大変名誉あることだと喜んでいきます。魅力あるPRのために役立ててほしい。応援しています」と話しました。

倉光市長は「本市の遺跡を訪れる多くの方々のために案内看板の設置等に活用させていただきます」と感謝しました。

4/27 市役所



目録を手渡した相馬工場長(左)と工藤英仁専務取締役(右)

5/16 市役所



ハンドジェルなどを手渡した秦会長(右)とカブセンター柏店三上亮店長(左)

紅屋商事株式会社（秦勝重代表取締役会長）が市内小中学校や学校給食センターでの新型コロナウイルスの感染防止対策に役立ててほしいと、ハンドジェルや消毒スプレーなど約170万円相当を寄付しました。

秦会長は「地域のお役に立てればという思いがあった。いろいろな場所で使ってほしい」と話しました。

倉光市長は「全ての小中学校や学校給食センターなどに満遍なく配布するとなるとまとまった数が必要になる。たくさんいただきありがたく思います」と感謝しました。